

平成25年度 午さん未さんたちの田作り

～第七期大椎っ子田んぼ・第四期あすみっ子田んぼ 脱穀編～

谷津田から抱えて持ち帰った稲束は約1ヶ月ほど校内で干して乾かされ、いよいよ脱穀するだけとなりました。谷津田の農家の方からいただいた足踏み脱穀機や千歯こき、お借りした唐箕、籾摺り機など、普段、見たこともない機械に子どもたちの目はくぎづけ。最初に金谷さんから脱穀作業の流れや機械の扱い方を説明してもらいました。稲刈り同様、恐る恐る脱穀していましたが、慣れてくると何束も抱えて、「もう1回やりたい!」という子もいました。最後に金谷さんから田んぼの授業のしめくくりとして「命をいただくということ」についてお話をしていただきました。脱穀体験以上に子どもたちの心の中にこのお話が残っているようです。

■大椎小学校

☆まず、稲穂に残ったもみを手でとりました。親指と人差し指ではさんで先の方へすべらすとプチプチと取れました。次にわらについている‘はかま’というものを、髪の毛をくしでとかすように、手でとかすようにとりました。この作業を藁選り(わらすぐり)というそうです。3回くらいやったら、脱穀していいと言われたので、もみがいっぱいついた稲束をとって、足踏み脱穀機というローラーのついた機械のところに行きました。ローラーを外側に回してペダルを踏むと、ローラーが回る仕組みです。ちゃんと外側にまわしているのに、逆回転して自分の方に回ってしまいます。外側に回そうとペダルを踏むタイミングを合わせるのが難しかったです。稲をローラーについたはりがねにあてると、バラバラとモミがとれました。千歯扱きも使いました。稲穂をギザギザの歯にあてて、シュッと引くと、モミがポロポロっととれました。最後に風選という作業を見ました。唐箕という機械で、モミとまざったわらくすなどをとりのぞく作業です。モミだけになったら、もみすり機でモミを玄米にします。もみがらと玄米をさわり比べました。もみからはパン粉みたいなさわりがごちで玄米は冷たくて重かったです。みんな1つずつ玄米を食べました。甘くてかたい食感が好きでした。おもしろかったです。(Y.S)

☆脱穀、わら選り、もみすり見学と3つのことをやりました。どれも楽しかったです。でも、私は金谷さんのお話が1番心に残りました。お米1つぶにたくさんの命が入っていることを知りました。その話を聞いた時は、ちょっとゾクッとしました。けれどもこれからはお米だけじゃなく、いろいろな食べ物を大切に食べようと思いました。これで田んぼのお仕事は終わりと思ったら、食べるものが残っていました。早く、食べたいです。(M.T)

☆私は初めて脱穀をしました。体育館に入ると、いろいろな機械がありました。知らない機械ばかりだったので、びっくりしました。私は脱穀のやりかたがわからないので、少し心配でした。最初に金谷さんから説明があり、稲束、籾、しいななどたくさんの言葉を教えていただきました。稲束は束ねた稲のことです。そして稲束を千歯こきの歯にあててぐっと引き抜くともみがとれます。それを何回かくりかえします。足踏み脱穀機も使いました。足踏み脱穀機は、稲穂を足踏み脱穀機のローラーにあてて自分とは反対側に回るように足で踏んで動かします。その後、風選作業の見学をしました。この作業では、唐箕を使います。唐箕は風の力を利用してもみとわらくすとを分けます。1番出口からは重たいもみが出てきて、2番出口からは軽いもみが出てきて、唐箕の正面の大きな出口からわらくすなど、一番軽いものが出てきました。風の力で分けられるなんてすごいと思いました。次にもみすり作業を見学しました。もみを外して玄米にする作業です。1粒ずつ手ですると時間がすごくかかるので、機械を使うそうです。機械でやるとすごく早く終わりました。脱穀が終わって、脱穀がとても大切で大変な作業だと思いました。お米を作っていく中で、私たちは虫などのたくさんの命を殺してしまっていることも教えてもらいました。ごはんを食べるときには「いただきます」「ごちそうさま」を必ず言おうと思います。(M.K)

☆ぼくは脱穀作業を通して、2つのことを知りました。1つ目は工夫です。足踏み脱穀機や唐箕は、電気のなかった時代の人はどうしたら少しでも楽に作業できるかと考えて生まれたんだなと思いました。そして縛ないをしてみて、あまった物を有効的に使うのも昔の人の知恵だなと思いました。2つ目はあいさつです。金谷さんのお話で1つぶのお米に1500万の命が亡くなっていることを知りました。だから、あいさつにもっと心をこめてこれからは言おうと思いました。(K.I)

☆今日はみんなで体育館で脱穀のお仕事をしました。「千歯こき」や「足踏み脱穀機」など危ない機械をたくさん使いました。機械を使って籾をたくさんとることができてよかったです。残った藁は藁選りをしました。この藁を編んで昔はぞうりなどにしていたと聞いて、おどろきました。風選という作業では、「唐箕」を使って、籾とわらくすなどを分けました。唐箕の3つの出口から重たい籾、少し軽い籾、わらくすと別々に出てくることにびっくりしました。

籾摺り作業では、たくさんの人々の努力で作られた籾摺り機で玄米ともみがらとに分けました。機械から出てきた玄米ともみがらをさわってみると、温度や重さが違いました。今日の作業は、谷津田ではなかったけれど、本場のような気がしました。これまで、たくさんの「命」をいただき稲を育ててきました。稲束についているまで籾はねばり強く生きていました。このお米を食べる時の感動をみんなで味わいたいです。(M.K)

■あすみが丘小学校

☆ぼくは、脱穀を初めてやりました。最初は脱穀のことお何も知らなくて、脱穀ってどういうことをするのかなあ、とっていました。だけど、金谷さんのお話を聞いていたら、こういうことをするんだなあ、と思いました。ぼくが機械を使って作業をしていたら、昔の人はこんなものを作ったのが信じられませんでした。ぼくは、足踏み脱穀機が一番楽しかったです。だけど、それだけでは取りきれなかったものを、手で取りました。機械を使って取るのは簡単だけど、人の手で取るのはこんなに大変なんだということがわかりました。最後に、いらぬ葉をとりのぞいて、形を整えて終わりでした。最後の金谷さんのお話で、「いただきます」というのは、命をいただくことだとわかりました。早く、自分たちで育てたお米を食べてみたいです。(R.H)

☆10月28日あすみ小で脱穀しました。はだ寒い中、完全防備（ほこりたいさく）でやりました。最初足踏み脱穀機を使いました。そのあと、下のほうに残った稲を取りました。その後、唐箕で風選をしました。ちょうど良い風がどうすればよいかよくわかるなあ、と었습니다。もみ殻の成分がガラスと同じということを初めて知りました。風車でまわりにあてて割ったら玄米になるということは、だれが考えたのだらうかと思っています。玄米ができていました。一つ食べると、ぼくにはあまりおいしくありませんでした。でも、白米になればおいしいのかなあ、と었습니다。はやく白米を食べたいです。(N.M)

☆今日脱穀をしました。脱穀する道具がものすごく危険でした。最初に足踏み脱穀機をやりました。力を弱くして、稲をもっていたので、機械に稲がまきこまれてしまいました。次に、千歯こきで脱穀をしました。稲がバラバラとれてしまって、米をとるのに苦労しました。藁を整えて、束のところに置いて、次に唐箕を使って葉っぱと米と軽い米とで分けました。唐箕の仕組みは、風を起こして草と空の種を分けるものです。次に、もみすり機で殻つきの稲を玄米に分けました。殻は、ものすごくほこりが舞っていました。金谷さんは、いつもより張り切っているように見えました。今年は、お米が大豊作だと思いました。わらの束は、大きなドッジボールぐらいの直径がありました。稲ともこれでさよならだなあ、と었습니다。最初は10cmぐらいだったのに、あっという間に大きくなって、びっくりしました。今日はとても良い経験ができて、良かったです。(M.M)

☆今日は学校で脱穀をしました。私は初めて脱穀をするので、とても楽しみでした。でも少し怖くてやる勇気がなかなか出ませんでした。そしたら後の子が「じゃあ私が先にやってみるよ」と言って、先にやってくれました。そしてそれを見てたら意外にできそうな気がしてきたので、やってみました。最初に足で踏んで回す速さを調節しました。そして、赤シャツおじさんが「そろそろ稲をやってもいいかな」といったので、私は稲を軽く乗せる感じでやってみました。そしたらとてもいっぱいお米がとれたのでよかったです。そして足踏み脱穀機と千歯こきでふた束を脱穀しました。次に、唐箕を使って三つに分かれるところを見せてくれました。私はただ回すだけで、三つに分かれるなんて、とてもすごいと思いました。昔の人はとても工夫していたんだなあと思いました。次にもみすり機の説明を受けて、同じように白米になるところを見せてくれました。こんなに小さな道具が玄米を入ただけで白米になって出てくるなんて、とてもびっくりしました。次に、金谷さんが「その白米を一人一粒食べてみな」といったので、一粒食べてみました。すこし甘くておいしかったです。(M.S)

☆10月28日、今日は金谷さんと松下さんがあすみ小に来てくれました。金谷さんは、昔の脱穀をする道具を見せてくれたあと、その道具の使い方を細かく説明してくれました。1. 足踏み脱穀機で米を稲から離しました。この作業は見た目では、簡単そうでしたが、稲を持っていかれた子もいました。だけど、コツを覚えると楽しくて、赤シャツおじさんに「プロ並みだあ」と言われてすこしうれしかったし、心の中で「私ってプロ並みなんだ！」とっていました。2. 自分の手で残った米を「プチプチ」と取りました。とても気持ち良かったです。3. 自分の手で葉を落としました。ボランティアのお母さんたちやYPPの人たちから上手だね、と言われてうれしかったです。4. 唐箕は、重いものと軽いものを風で分ける作業でした。とてもすごくて、中を見てみたら、本当に風で選んでいました。そのことを「風選」というそうです。(M.M)

♪あすみが丘小学校の皆さんが描いた脱穀のイラスト♪





里山たんけんレポート

第166回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2013年11月3日(日) うすぐもり

シュレーゲルアオガエルがコナラの葉の上に載っていました。前後の足の指の数を数え指先の吸盤を観察して放しました。可愛いと言う声があがりました。すぐ、手の届くところにアケビがたくさんなっています。まだ、食べたことがないと言う方がいたのでもいで味わいました。物のない頃に育った70代以上の人にとっては懐かしい味です。タンポポ、チヂミザサ、センダングサの仲間、イノコズチの仲間、オヤブジラミ、オオオナモミ、メナモミ、オオバコ、ガマズミ、ムラサキシキブなど種が実る時期で植物の種子散布の戦略の観察事例に事欠きません。昆虫は少なくなりましたがコバネイナゴ、カマキリの仲間、チョウではカタテハ、ルリタテハ、キタキチョウ、ヤマトシジミなどはまだまだ元気です。猛禽!の声、ノスリが現れました。冬鳥がやってくる季節になりました。稲刈りが終わった田んぼの中は田んぼの草々がいっぱい。赤っぽく色づいたヤナギタデ(ホンタデ)が目立ちます。蓼喰う蟲も好き好きのタデです。葉っぱを口にして辛みを味わったりしながら晩秋の谷津風情を楽しみました。あとから来られた母子3名の方と林に落ちたコナラのどんぐりを拾い、台地上の裸地に埋めました。(参加者 大人7名、高校生4名、こども2名; 報告: 網代春男)

第154回下大和田 YPP「緑米の脱穀」(第11回米づくり講座)

2013年11月9日(土) 晴れ

第155回下大和田 YPP「もみすり」(第12回米づくり講座)

2013年11月16日(土) 晴れ

9日は緑米と赤米の脱穀をしました。機械がしっかり動いてくれたので順調に作業が進みました。最後にオダを片付けて田んぼは来春までしばしお休みです。16日は千葉市農政センターの一角をお借りしてもみすりをしました。機械にもみを入れるときれいな玄米が勢よく吐き出されて袋を満たしていくのは見ていて気持ちがいいものです。今年はコシヒカリも緑米も100kg前後になりなかなかの収穫のようです。収穫祭が楽しみです。



(参加者: 脱穀 大人13名、子ども5名、もみすり 大人12名、子ども2名; 報告: 高山邦明、写真: 桜井健)



第100回小山町 YPP「稲刈り」

2013年11月3日(日) 晴れ

第101回小山町 YPP「脱穀」

2013年11月17日(日) 晴れ

3日は今年からお手伝いをはじめた田んぼのコシヒカリを刈りました。田植えが遅れてしまったせいで分けつが今ひとつ、しかも雑草がひどくて、稲と雑草を分けるのが大変でした。がんばって刈ってもオダがなかなか埋まらないのが残念。17日は赤米の脱穀をしました。今年の赤米は記録的に背が高く育っていて、足踏み脱穀機を使っているとそのことを改めて感じました。YPPの活動日以外にも稲刈りや脱穀を進めましたが、今年は田んぼが広がった分、作業の量が多くて、稲刈りや脱穀が12月までずれ込むことになりました。



(参加者: 3日 大人7名、子ども2名、17日 大人5名; 報告: 高山邦明、撮影: 齊藤薫・高山邦明)



下大和田フォトギャラリー

(撮影: 網代春男 2013年11月26日)



スッポンタケ



かかしにカワセミがとまっていた

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 11月 3日 アシ原からアオジの声がする。モズが鳴きまねをしていた。斜面林の縁でヤクシソウが咲く。(高山)。
11月 10日 アカハラ or シロハラの声がした(高山)。
11月 17日 ツグミの声が聞こえた。ノスリが上空を通過。リンドウが開花(高山)。

下大和田

- 11月 9日 アシ原からベニマシコの声が聞こえた(高山)。
11月 20日 稲刈りが取られて一人取り残されたかかしにカワセミがとまっている。お気に入りの場所のよう。YPP 田の前の U 字溝の縁に赤とんぼがいっぱい並んで止まっていた。片端から 20 頭写真に撮って拡大して確認したらナツアカネが 15 頭、マユタテアカネが 5 頭だった。ナツアカネのみは頭の前から尾の先まで赤くなっている(網代)。
11月 26日 今日もかかしにカワセミがとまった。山にはスッポンタケやヒラタケなどのキノコが出ていた(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第 156 回「収穫祭とおもちつき」(兼第 13 回米づく講座) 同 第 157 回「どんど焼きと昔あそび」

今年最後のイベント、収穫祭ではみんなで育てた緑米を使っておもちつきをします。そして年明け最初は恒例のどんど焼き、そしてペイゴマなど昔懐かしい遊びを田んぼで楽しみます。ぜひ、お出かけください。

日 時: 収穫祭 2013 年 12 月 14 日(土) 10:00~14:00

どんど焼き 2014 年 1 月 11 日(土) 10:00~14:00 いずれも小雨決行

場 所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集 合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00 (JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、収穫祭ではお皿・お椀・はし、
どんど焼きの時は、昔あそびの道具、どんど焼きで燃やしたいものなど。

参加費: 収穫祭 小学生以上一律 500 円(食材費を含む特別料金です)、小学生未満無料

どんど焼き ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料

主 催: ちば環境情報センター 共 催: ちば・谷津田フォーラム

▼第 168 回 下大和田 1 月の谷津田観察会とごみ拾い

冬鳥を求め普段は入れない谷津下流部まで巡ります。

日 時: 2014 年 1 月 5 日(日) 10~12 時 ☆小雨決行

場 所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集 合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00 (下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100 円(小学生以上、資料代など)

主 催: ちば・谷津田フォーラム 共 催: ちば環境情報センター

▼第 102 回・103 回 小山町 YPP「脱穀・モミすり」

今年は田んぼが広がって作業が遅れていますが、何とか年内に作業を終わらせたいと思います。

日 時: 2013 年 12 月 8 日(日)・22 日(日) いずれも 10:00~12:30、小雨決行

場 所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費: 100 円(小学生以上、資料代など)

主 催: ちば環境情報センター

編集後記 稲刈りが終わって切り株だけになり、オダも片付けた田んぼは広々としています。アオジの小さなチツ、チツ、ツグミの元気なクワックワッ、ジョウビタキの柔らかなヒッヒッヒッ、と冬の鳥たちが谷津にやって来たことを声で知らせてくれます。4 月まで田んぼはお休み。でも、その間の谷津は冬鳥でにぎわい、アカガエルの産卵が行われ、モズの恋の季節がはじまります。冬の谷津にもぜひ出かけてみてください。

(高山 邦明)